

## 新任医師紹介

●平成27年度、新たに25名の医師を迎えました。

平成27年6月1日現在



藤田 直也

腎臓科



伊藤 友弥

救急科



伊藤 友理枝

救急科



石川 祥一朗

救急科



安岡 龍平

感染症科



檜原 翔

神経科



都野田 真健

整形外科



松崎 和炯

泌尿器科



今井 一徳

集中治療科



丹羽 雄大

集中治療科



山口 由紀子

麻酔科



阿部 直紀

感染症科



跡部 真人

心療科



小野 靖之

小児外科



古橋 弘基

整形外科



久松 英治

泌尿器科



加藤 健

耳鼻咽喉科



堀尾 純奈

眼科



崎原 徹裕

アレルギー科



田上 和憲

アレルギー科



小野 学

アレルギー科



伊藤 創太郎

腎臓科



柴田 玲子

腎臓科



北本 晃一

感染症科



古波藏 都秋

感染症科

## 診療科トピックス

### ～腹腔鏡手術について～

腹部を大きく切開せずに、数カ所の小さい傷でカメラや器具を腹腔内に挿入して、カメラの画像をモニターで見ながら行うのが腹腔鏡手術です。当院でも、鼠径ヘルニアや虫垂炎を始め様々な疾患に対して腹腔鏡を使用しています。鼠径ヘルニアでは2003年より腹腔鏡を導入しています。お臍からカメラを挿入し、特殊な針を刺してヘルニアの穴を閉じるLPEC法という手術です。現在までに1400例以上の手術を行っています。

患者さんにとって腹腔鏡の利点は、なんといっても傷が小さいことです。そのため開腹術に比べ、術後の疼痛が軽く、回復も早く、入院期間が短くて済むといわれています。

手術をする外科医からすると、カメラで拡大するため細かいところもよく見えること、体の奥の方も見えること、狭いところにも鉗子が届くことなどの利点があります。

しかし、カメラでは死角ができる、手術によっては時間がかかる、手術器具の動きに制限があるなど欠点があります。

### 小児外科

そのため腹腔鏡では困難な手術もたくさんありますが、逆に開腹より腹腔鏡の方が適している手術もあります。また体格が小さいとき、心臓や肺に病気があるときなどは腹腔鏡でできないこともあります。

このように病気の種類や程度、一人一人の状態によって、腹腔鏡が可能かどうかを判断しています。

今後、器具の進歩に伴いますます腹腔鏡手術が広がっていくと考えられます。当科では今後も安全を第一に考え、手術に取り組んでいきます。

